

令和7（2025）年度

学習ナビ

（学習の手引き）



丹波篠山市立西紀中学校

授業科目名	国語	対象	2 年生
担当教員	雪岡照二	受講教室	2 A 教室
週当たり時数	4（年間 140 時間）		
到達目標			
(1) 国語に関心をもち、進んで自己の学びに活かそうとする (2) 言語について正しく理解し、コミュニケーションのための技能を身につけている (3) 課題解決するために、内容を理解し、自分の考えをまとめて話したり、適切に文章に書いたりすることができる			
授業方法	講義、対話等の体験活動、表現活動		
○講義：授業者が国語科の見方、考え方について、板書、パーポイント、映像などを用いて説明する ○体験活動、表現活動：自分の考えをまとめたり、話し合い共有したりすることで考えを深める。作文やスピーチ、作品づくりなどの表現活動をおこなう。			
授業計画・内容			
1 学期	2 学期	3 学期	
○未来へ ○あの夕暮れへ帰る ○短歌を楽しむ 短歌五首 ○短歌のリズムで表現しよう ○足跡 ○ネコだって推理できる ○経節—世界に誇る伝統食 ○話し言葉と書き言葉 ○形の似た漢字 ○敬語 ○用言の活用 ○漢字の意味 ○書写（硬筆の楷書・行書）	○字のない葉書 ○黄金の扇風機 ○サハラ砂漠の茶会 ○落葉松 ○枕草子・徒然草 ○平家物語 ○漢詩 ○助詞 ○助動詞 ○根拠を吟味して書こう ○説得力のある提案をしよう ○同訓異字 ○依頼状やお礼状を書こう	○書写（毛筆の楷書・行書） ○走れメロス ○坊っちゃん ○人物を描写しよう ○「正しい」言葉は信じられるか ○話し合いで問題を検討しよう ○いきいきと描き出そう ○わたしが一番きれいだったとき ○類義語・対義語 ○同音異義語	
休業中	・ 文法ワーク、国語のワーク ・ 読書感想文、人権作文		
みなさんへのメッセージ	国語は、すべての学びの基本です。どの教科も日本語（国語）の力が必要です。そして、国語の力＝「読む・話す・聞く・書く・言語の知識」の力です。国語の力がつくと、「学ぶ力が向上した」ことになります。他の教科やこれからの多くの学びに役立つよう、進んで取り組んでいきましょう。		
評価方法			
知識、技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む力	
・ 定期テスト（5 回） ・ 書写作品 ・ 小テスト（漢字、文法）	・ 定期テスト（5 回） ・ 朗読テスト、小作文 ・ 読書感想文 ・ 話し合い活動、スピーチ	・ 授業での意見発表や態度 ・ 漢字ノート、自主学習ノート ・ ふりかえりの内容 ・ 提出物への取り組み	
授業・評価についての留意事項	国語の力は生活の中で、多くの人と『言葉』でつながっていける力のことを言います。そのために、多くの人に伝わる正しい言葉を習得し、使えることが必要です。積極的に、多くの文章・語句に触れ、自分の考えをもち、その意見や考えを書いたり、話したり、交流できるように学んでいきます。		
使用教材	教科書（東京書籍）、つまづかない文法ワーク、国語の学習（ワーク）、国語活用資料集、タブレットパソコン		

授業科目名	社会	対象	2 年生
担当教員	森村 圭介	受講教室	2 A 教室
週当たり時数	3（年間 105 時間）		
到達目標			
（1）我が国の国土と歴史，現代の政治，経済，国際関係等に関して理解するとともに，調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 （2）社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。 （3）社会的事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情，国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。			
授業方法	講義、演習		
○講義：授業者が板書、スライドショー、映像など様々な資料を用いて説明する。 ○演習：地形図や年表、図表をもとに、その現象の意味を考察する。			
授業計画・内容（一部変更はあり）			
1 学期	2 学期	3 学期	
○地理的分野 ・九州地方 ・中国・四国地方 ・近畿地方 ・中部地方 ・関東地方 ・東北地方 ・北海道地方	○地理的分野 ・東北地方 ・北海道地方 ○歴史的分野 ・中世から近世へ ・江戸幕府の成立と東アジア ・産業の発達と元禄文化 ・幕府政治の改革と農村の変化	○歴史的分野 ・欧米の発展とアジアの植民地化 ・近世から近代へ ・近代国家へのあゆみ ・立憲制国家の成立 ・日清・日露戦争と東アジアの動き ・近代日本の社会と文化	
休業中	・ワーク（基礎基本の定着）、レポート課題		
みなさんへのメッセージ	地理分野は、2 年生で学習が終了します。九州地方から始まる日本地理では、語句もですが、資料の活用力が問われます。これまでの授業で学んだことを使って、各地方の特色を見ていきましょう。歴史分野では、近現代史に入っていきます。3 年生で難しい内容を理解するためにも、確実に流れをつかみましょう。		
評価方法（それぞれを等価で評価し、最終的な評価を決定する）			
知識、技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む力	
・定期テスト ・ワークシート（振り返り） ・小テスト	・定期テスト ・ワークシート（振り返り） ・レポート課題	・定期テスト ・発表、授業の様子、提出物 ・ワークシート ・小テスト	
授業・評価についての留意事項	次の授業に向けて予習課題に取り組み、目標や課題意識を持って授業に臨みましょう。また、授業中に出された課題などは確実にやり、提出しましょう。最初から答えを見たり、友だちに見せてもらったりするのではなく、自分の力で取り組むことで力が付きます。テストだけでなく、日々の授業プリントにも丁寧に取り組みましょう。		
使用教材	教科書【地理】（帝国書院）【歴史】（日本文教出版）、地図帳（帝国書院） 歴史の学習【地理 2】【歴史 2・3】（浜島書店）、授業プリント、ファイル		

授業科目名	数学	対象	2 年生
担当教員	西畑 魁人・中森 邦広	受講教室	2 A 教室・学習室 B
週当たり時数	3（年間 105 時間）		
到達目標			
（1）数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 （2）数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 （3）数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。			
授業方法	講義、演習		
○講義：授業者が板書、ICT 機器を用い映像など様々な資料を用いて説明する。			
○演習：定期的にワークの提出を求め、毎時間 5 分ドリルを行い、演習問題に取り組む。			
授業計画・内容（一部変更はあり）			
1 学期	2 学期	3 学期	
○式の計算 ・ 式の計算 ・ 文字式の利用 ○連立方程式 ・ 連立方程式 ・ 連立方程式の利用	○一次関数 ・ 一次関数とグラフ ・ 一次関数と方程式 ・ 一次関数の利用 ○図形の調べ方 ・ 平行と合同 ・ 証明 ○図形の性質と証明 ・ 三角形	○図形の性質と証明 ・ 四角形 ○場合の数と確率 ・ 場合の数と確率 ○箱ひげ図とデータの活用 ・ 箱ひげ図	
休業中	・ 基礎の強化ワーク、数学の学習ワーク、プリント		
みなさんへのメッセージ	計算問題は、量をたくさんこなし、自分のつまずきポイントを知り、ケアレスミスをなくしていきましょう。図形や関数などの総合問題は、まず問題文の意味を理解し、今まで学んだ事柄をどのように用いるか考え、じっくり粘り強く解答を導いていきましょう。		
評価方法（それぞれを等価で評価し、最終的な評価を決定する）			
知識、技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む力	
・ ワーク ・ プリント ・ 定期テスト	・ ワーク ・ プリント ・ 定期テスト	・ 発表、授業中の様子、振り返り ・ ワーク・ノート ・ プリント ・ 定期テスト	
授業・評価についての留意事項	目標や課題意識を持って授業に臨みましょう。 その日やった問題はその日のうちにマスターしましょう。わからないときは、どこがわからないのかということを考えましょう。出された宿題は必ずしましょう。また、宿題だけではなくワークなども活用しましょう。		
使用教材	未来へ広がる数学（啓林館）、数学の問題ノート(新学社)、ノート（各自で用意）、プリント（作成）、ファイル		

授業科目名	理科	対象	2 年生
担当教員	渡邊 彩香	受講教室	理科室・2 A 教室
週当たり時数	4（年間 1 4 0 時間）		
到達目標			
(1) 自然現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につける。			
(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身につける。			
(3) 自然現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする力を身につける。			
授業方法	講義、演習		
○講義：授業者が板書、スライドショー、映像など様々な資料を用いて説明する			
○演習：自然現象の再現実験及び観察を行う			
授業計画・内容（一部変更はあり）			
1 学期	2 学期	3 学期	
○オリエンテーション ○化学変化と原子・分子 ・物質の成り立ち ・物質の表し方 ・さまざまな化学変化 ・化学変化と物質の質量 ○生物の体のつくりとはたらき ・生物の体をつくるもの	○生物の体のつくりとはたらき ・植物の体のつくりとはたらき ・動物の体のつくりとはたらき ・動物の行動のしくみ ○電流とその利用 ・電流の性質 ・電流の正体 ・電流と磁界	○地球の大気と天気の変化 ・地球を取り巻く大気のように ・大気中の水の変化 ・天気の変化と大気の動き ○地球の大気と天気の変化 ・大気の動きと日本の四季	
休業中	・ワーク（夏、冬）→基礎基本の定着 ・自由研究（夏）→科学的思考力の育成		
みなさんへのメッセージ	自然科学とは何か？私たちの身の回りで起きる現象の理由を考えることです。中学校の間には4つの領域を1つの教科として学習します。それぞれの視点で得られた知見をもとに、自然現象について考えていきましょう。		
評価方法（すべて 1/3 ずつ評価し、最終的な評価を決定する）			
自然事象への知識、実験技能	科学的思考力、表現力	主体的に学習に取り組む力	
・定期テスト（5 回） ・小テスト（不定期） ・実験レポート	・実験レポート ・ディスカッション ・定期テスト（5 回）	・授業での意見発表 ・授業の振り返り ・授業でのプリント記入 ・定期テスト（5 回）	
授業・評価についての留意事項	また、毎時間の振り返りを行う。テストごとにワークやファイルを提出する。欠席者は授業者に必ず授業の内容を確認する。		
使用教材	未来へ広がるサイエンス（啓林館）、授業プリント、理科の自習学習（新学社）、観点別評価ミニテスト CRE（明治図書）		

授業科目名	音楽	対象	2年生
担当教員	秋元麻里	受講教室	音楽室
週当たり時数	1（年間35時間）		
到達目標			
(1) 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身につけるようにする。 (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聞けることができるようにする。 (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。			
授業方法	講義、実技、鑑賞、グループワーク		
○講義：授業者が板書、スライド、映像、音源など様々な資料を用いて説明する ○実技：歌唱、器楽等の練習、演奏を行う。創作活動を行う。音楽を鑑賞し、特徴や曲想を感じ取る。			
授業計画・内容（一部変更はあり）			
1学期	2学期	3学期	
○オリエンテーション ○歌唱 ・混声二部合唱 ・翼をください ・夏の思い出 ・荒城の月 ・校歌 ○器楽 アルト・リコーダー ○鑑賞 ・フーガ短調 ○音楽を形作っている要素 ・音楽の形式・音名・記号	○歌唱 ・混声3部合唱曲 ・サンタ ルチア ○鑑賞 ・交響曲第5番ハ短調 ・アイダから ○創作 ・リズムアンサンブル ○指揮をしてみよう	○鑑賞 ・歌舞伎「勧進帳」 ○歌唱 ・混声3部合唱曲 ○器楽「ギター」 ○創作 ○鑑賞 ・歌舞伎「勧進帳」 ・郷土の祭や芸能	
休業中	音楽をたくさん聴こう 学習課題はなし		
みなさんへのメッセージ	・音楽では読譜や演奏技能など表現するための基礎知識を学びます。音楽の生まれた歴史や背景を知り、音楽の良さや美しさを聴きとることを目指します。次の授業に向けて予習復習に取り組み、目標を持って授業に臨みましょう。		
評価方法（それぞれを等価で評価し、最終的な評価を決定する）			
知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度	
・定期テスト（3回） ・実技テスト（不定期） ・ワークシート・創作課題	・ワークシート・創作課題 ・実技テスト ・定期テスト（3回）	・授業での意見発表や態度 ・ワークシート・創作課題 ・定期テスト（3回）	
授業・評価についての留意事項	授業では歌唱や器楽における演奏の基礎と実技、その他鑑賞、創作について学習する。定期テストや実技テスト以外に、授業の中で用いるワークシートを評価（観点別）に加える。また、練習中の姿勢や技能表現等も評価に加える。実技や鑑賞等、その時間のみ実施のものも多いため、欠席者は授業者に必ず授業内容を確認すること。		
使用教材	中学生の音楽2.3の上、中学生の器楽（教育芸術社） ワークシート（授業で配布）		

授業科目名	美術	対象	2 年生
担当教員	村部 京子	受講教室	美術室
週当たり時数	1（年間 3 5 時間）		
到達目標			
（1）対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができるようにする。 （2）自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようになる。 （3）主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。			
授業方法	講義、実技、鑑賞、グループワーク		
○講義：授業者が板書、タブレット、実演など様々な資料を用いて説明する			
○実技：美術に関する表現活動及び鑑賞を行う			
授業計画・内容（一部変更はあり）			
1 学期		2 学期	
○オリエンテーション ○立体感のある平面構成 ○絵画 伝えるデザイン ○鑑賞・新しい美術		○パブリックアート ○日本の伝統色 ○工芸 木彫り ○鑑賞 印象派とジャポニズム	
		3 学期	
		○水墨画の表現 ○絵画 漫画の世界 ○鑑賞 日本美術と西洋美術	
休業中	ポスター課題、美術に親しむ		
みなさんへのメッセージ	美術では、作品を作るための道具の使い方や表現方法について学びます。また、作品を鑑賞して作者の思いや意図を感じ取り、美術の良さや美しさを感じ取る活動を行います。美術に明確な「答え」はないので自由に自分の思いを表現しましょう。		
評価方法（すべて 1/3 ずつ評価し、最終的な評価を決定する）			
表現及び鑑賞の知識、実験技能		美術的思考力、表現力	
・定期テスト（3 回） ・自画像、ワークシート		・定期テスト（3 回） ・木彫り、ワークシート	
		主体的に学習に取り組む力	
		・定期テスト（3 回） ・ワークシート ・授業での意見発表や態度	
授業・評価についての留意事項	定期テスト、ワークシート、アイデアスケッチ、完成作品、授業態度(作品の期日を守る、積極的に取り組むなど)から総合的に判断する。		
使用教材	美術 2・3 上（日本文教出版）、美術 2・3 下（日本文教出版） 美術資料・兵庫県の美術（秀学社）、ワークシート（授業で配布）		

授業科目名	保健体育科	対象	2 年生
担当教員	足立 良輔	受講教室	運動場・体育館・プール・教室
週当たり時数	3（年間１０５時間）		
到達目標			
(１) 運動及び健康・安全について、理論的・科学的に理解し、運動の特性に応じた技能を習得する。 (２) 運動及び健康・安全について、自他の課題を発見し、課題解決の方法を考え、実践する。 (３) 運動の楽しさや喜びを味わうことができ、健康・安全についての学習を主体的に取り組んでいる。			
授業方法	実技、講義		
○実技：誰もが安心・安全に取り組める方法で、目標に向けて練習を重ねる。 ○講義：授業者が板書、スライドショー、映像など様々な資料を用いて説明する。			
授業計画・内容（一部変更はあり）			
1 学期		2 学期	3 学期
○オリエンテーション ○新体力テスト ○陸上競技（ハードル走） ○水泳		○球技（バドミントン） ○球技（マット運動） ○球技（ソフトボール・卓球） ○武道（剣道）	○陸上競技（長距離走） ○ダンス (通年) ○保健分野／体育理論
休業中	規則正しく生活する。		
みなさんへのメッセージ	保健体育は、体育実技だけではなく、保健分野も学習し、体のことや環境のこと、感染症のことなどを学習します。生涯にわたって健康な生活ができるように、一緒にがんばりましょう。		
評価方法（それぞれを等価で評価し、最終的な評価を決定する）			
知識・技能		思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む力
・ 定期テスト（３回） ・ 小テスト（単元ごと） ・ 実技レポート		・ 実技レポート ・ 小テスト（単元ごと） ・ 授業での話し合い活動 ・ 定期テスト（３回）	・ 授業での意見発表や様子 ・ 小テスト（単元ごと） ・ 授業のノート記入 ・ 定期テスト（３回）
授業・評価についての留意事項	実技教科のため、授業には積極的に参加しましょう。苦手意識がある人も多いと思いますが、他者と評価するのではなく、自分がどれだけ成長したかを評価します。 また、定期的にワークの提出を求めます。これも評価（主体的に学習に取り組む力）に加えます。欠席者は授業者や友だちに授業の内容を確認するようにしましょう。		
使用教材	新版中学校保健体育（大日本図書） 中学体育実技（学研）、 中学保体資料ノート（正進社）		

授業科目名	技術	対象	2 年生
担当教員	野元 将央	受講教室	技術室
週当たり時数	1 時間（年間 35 時間）		
到達目標			
(1) 生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに関わる技能を身に付ける。 (2) 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し表現するなど課題を解決する力を養う。 (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。			
授業方法	講義、演習		
○講義：授業者が板書、実験、映像資料を用いて説明する ○演習：電気エネルギーの変換に関する実験と製作及び生物育成にける作物栽培実習を通して生活と技術の実践に係る知識と技能を身に付ける			
授業計画・内容（一部変更はあり）			
1 学期	2 学期	3 学期	
○金属加工実習 ○エネルギー変換の技術 ・エネルギーの利用 ・エネルギー資源 ・エネルギーの変換効率 ・電気エネルギーとその利用 ○エネルギー変換の実験 ・電気回路の実験と製作（1）	○エネルギー変換の実験 ・電気回路の実験と製作（2） ○機器の安全な利用 ・電気機器の定格 ・電気機器の事故防止 ・機器の保守点検	○生物育成に関する技術 ・肥料の3要素 ○2年生の学習のまとめ	
休業中	・自由研究または製作（夏季・冬季休業）→生活を工夫し創造する資質能力の育成		
みなさんへのメッセージ	生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ持続可能な社会をつくるために授業で生活を工夫し、創造する知識や技能を身に付けていきましょう。		
評価方法（それぞれを等価で評価し、最終的な評価を決定する）			
知識、技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む力	
・定期テスト ・ワークシート ・製作品	・定期テスト ・課題レポート ・製作品	・定期テスト ・ポートレート ・レポート ・学習発表	
授業・評価についての留意事項	技術に関する原理・法則、基礎的な技術の仕組みを理解するための課題を設定し、課題解決に向けた製作活動（知識習得、構想、課題解決活動、まとめ）といった学習活動全般を通して評価を行う。		
使用教材	ノート（各自で用意）、ワークシート（授業で配布）		

授業科目名	家庭科B領域衣食住の生活(食生活)	対象	1、2年生(隔年)
担当教員	遠山久美子	受講教室	被服室・調理室・教室
週当たり時数	1時間(年間 35 時間)		
到達目標			
(1)家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境について生活の自立に向けて理解し、技能を身につける。 (2)生活の中から問題を見だし、これからの生活を展望して課題を解決する能力を養う。 (3)自分と家族・家庭生活と地域との関わりを考え、家族とともによりよい生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。			
授業方法	講義、実習		
○講義:授業者が板書、スライドショー、映像など様々な資料を用いて説明する ○実習:調理実習・実験(コロナ対応が解除された場合)・生活を豊かにするものの製作			
授業計画・内容(一部変更はあり)			
1学期	2学期	3学期	
1 食事の役割と食習慣 2 中学生に必要な栄養を満たす食事 中学生の発達と必要な栄養 栄養素のはたらきと 6つの基礎食品群 献立ステップ1栄養バランスを目で見て判断 ・生活を豊かにするものの製作	4 日常食の調理 調理の計画 おいしさと調理(実験含む) ①ますます好きになる肉の調理 ・ (②実習) ①こんなにおいしい魚の調理・ (②実習) ①好きになる野菜の調理 ・ (②実習) 5 地域の食文化 6 献立づくり	3 さまざまな食品とその保存 生鮮食品の選択と保存 食品が食卓にのぼるまで 加工食品の選択 食品の安全と情報	
休業中	・家庭生活で仕事を手伝う。		
みなさんへのメッセージ	食べて、着て、寝て、家族と暮らしていること、ふだんは当たり前すぎて、自分の家庭生活をふりかえることはあまりないかもしれません。日常生活でふれているからこそ、食事づくりを手伝ったり、家族のために食事をつくったり、ボタンをつけたり、ほころびをなおしてみることが実践力です。予習や復習は日々の生活であり、授業を通して深めていきましょう。		
評価方法(それぞれを等価で評価し、最終的な評価を決定する)			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む力	
・定期テスト(3回)	・製作物 ・課題レポート ・定期テスト(3回)	・授業での意見発表や態度 ・授業のノート記入 ・定期テスト(3回)	
授業・評価についての留意事項	ワークを提出する場合もある。これも評価(主体的に学習に取り組む力)に加える。欠席者は授業者に必ず授業の内容を確認すること。		
使用教材	家庭科総合ノート(明治図書) 兵庫県技術・家庭科ハンドブック		

授業科目名	家庭科B領域(衣生活・住生活)	対象	1.2 年生(隔年)
担当教員	遠山久美子	受講教室	被服室・調理室・教室
週当たり時数	1 時間(年間 35 時間)		
到達目標			
(1)家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境について生活の自立に向けて理解し、技能を身につける。			
(2)生活の中から問題を見だし、これからの生活を展望して課題を解決する能力を養う。			
(3)自分と家族・家庭生活と地域との関わりを考え、家族とともによりよい生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。			
授業方法	講義、演習		
○講義:授業者が板書、スライドショー、映像など様々な資料を用いて説明する			
○実習:生活を豊かにするものの製作			
授業計画・内容(一部変更はあり)			
1 学期	2 学期	3 学期	
1 目的に応じた衣服の選択 衣服で伝わるメッセージ自分らしくコーディネート つなげよう和服の文化(着つけ) 上手な衣服の選択 2 日常着の手入れと保管 まかせて衣服の手入れ 布の繊維に応じた手入れ	めざそう洗たく名人 補修や収納・保管 3 生活を豊かに 実践するものの製作 布による作品で生活を演出 製作実習 4 持続可能な衣生活	B 衣食住の生活[住生活] 住まいのはたらき 住まいの空間 家庭内事故への備え 災害への備え 3 持続可能な住生活	
休業中	・家庭生活で仕事を手伝う。		
みなさんへのメッセージ	食べて、着て、寝て、家族と暮らしていること、成長している自分など、ふだんは当たり前すぎて、自分の家庭生活をふりかえることはあまりないかもしれません。知識や技能に正解はあっても、それを生活で自分がどう考え、使うのか、正解は自分が興味を向けて見つけていくことです。予習や復習は日々の生活であり、授業を通して深めていきましょう。		
評価方法(それぞれを等価で評価し、最終的な評価を決定する)			
知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む力	
・定期テスト(3 回)	・製作物 ・課題レポート ・定期テスト(3 回)	・授業での意見発表や態度 ・授業のノート記入 ・定期テスト(3 回)	
授業・評価についての留意事項	ワークを提出する場合もある。これも評価(主体的に学習に取り組む力)に加える。欠席者は授業者に必ず授業の内容を確認すること。		
使用教材	家庭科総合ノート(明治図書)		

授業科目名	英語	対象	2 年生
担当教員	木寅丈紀	受講教室	2 A 教室
週当たり時数	4（年間 1 4 0 時間）		
到達目標			
（1）外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。 （2）コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 （3）外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。			
授業方法	講義、演習		
○講義：授業者が板書、パワーポイント、映像など様々な資料を用いて説明する。			
○演習：スピーチを聞いたり話したり、互いに英語で話し合ったりする。			
授業計画・内容（一部変更はあり）			
1 学期		2 学期	3 学期
Unit 0 My Spring Vacation Unit 1 What can we experience on a trip? Real Life English 「機内放送」 Unit 2 What is local Food? Real Life English 「旅行先で」 Unit 3 What kind of job are you interested in? Real Life English 「仕事についてのインタビュー」		Stage Activity 1 MY favorite Japanese Food. Let's Read 1 History of Clocks Unit 4 What is important in a Homestay Real Life English 「ホームステイのお礼状」 Unit 5 What design is good for everyone Real Life English「アナウンス・案内」 Unit 6 How can we make a good presentation? Real Life English「電車の乗りかえ」 Stage Activity 2 My school and School Life	Let's Read 2 A Glass of Milk Unit 7 What are World Heritage sites and their problems? Real Life English 「買い物」 Stage Activity 3 Let's have a Discussion Let's Read 3 Pictures and Our Beautiful Planet
休業中	・ワーク		
みなさんへのメッセージ	英語は、教科である前に言語であり、自分の思いや考え、事実を伝える手段の 1 つです。また、1 年生で学習した内容を基に、新たな文型を学習します。まずは基本の単語と文を確実に覚えていきましょう。		
評価方法（すべて 1/3 ずつ評価し、最終的な評価を決定する）			
知識・技能		思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む力
・単語小テスト ・スプリングコンテスト ・リスニングテスト ・定期テスト		・インタビューテスト ・プレゼンテーション ・定期テスト	・発表 ・スピーキングテスト ・プレゼンテーション ・自己表現ノート
授業・評価についての留意事項	授業に積極的に参加しましょう。発表や声の大きさ、また、ワークや家庭学習ノートの内容、小テストにむけての取り組みなど、自分の努力次第で変えられるものに、こだわりを持って取り組みましょう。それらが必然的に、テストや評価にも反映されてきます。		
使用教材	New Horizon 2、ワーク、ノート、ワークシート		